

令和 7 年度使用中学校教科用図書
に関する調査報告書

教科名 保健体育

(様式1)

教科用図書調査に関する報告書

教科	保健体育
----	------

発行者 略 称	発行者 番 号	教科書の 記号・番号	教科書名	調査結果の概要
東 書	2	保体 002-72	新編 新しい保健体育	・「見つける→学習課題→課題解決→広げる」と学習の流れが明確で、生徒が見通しをもって学習に取り組むことができ、主体的・対話的な学びとなるように工夫されている。 ・授業者が様々な資料を活用して、授業の内容を深めることができるように工夫されている。 ・二次元コードが充実している。特に、P34、P35「月経・受精と妊娠」、P51「性の多様性」、P52、P53「人体図」、P70、P71「交通事故の発生と要因」、P91「血管の変化」、P103「薬物乱用体験者インタビュー」、P180「心肺蘇生法」など1ページにまとめられ、説明がわかりやすい。 ・P76、P77「自然災害による危険」では、地震の内容が多く取り上げられているが、台風や大雨、竜巻、落雷、大雪、火山噴火などについては、P86、P87 章末資料やデジタルコンテンツを見なければならぬため、指導するのがやや難しい。 ・P97「受動喫煙」が、キーワードとして取り扱いがやや少ない。 ・P142～145「感染症」では、コロナウイルス感染症の内容について、情報量がやや少ない。 ・各章の最後に学習のまとめがあり、キーワードの確認や章末問題、ワークシートがある。ワークシートには、日常生活に活かすことと、SDGsにつなげて振り返りができる工夫がある。 ・Google フォームを利用して、小テストができるところがよい。

発行者 略 称	発行者 番 号	教 科 書 の 記号・番号	教 科 書 名	調 査 結 果 の 概 要
大日本	4	保体 702	中学校保健体育	・左ページが本文、右ページが資料の配置構成が統一されていて、見やすくわかりやすい。 ・説明文章の量や内容がやや物足りない。 ・「つかもう→話し合ってみよう→活用して深めよう」と学習の流れがわかりやすく、学びをより深める工夫がされている。 ・P50「脳と神経、脳の機能、ホルモンの分泌、神経」について、まとめて掲載されており、わかりやすい。 ・P60～67、章末資料で運動と体力の要素の関連性、体育の授業で行う5領域の学び方が記載されており、体育の授業の確認ができるように、工夫されている。 ・P85、章末資料5「喫煙や受動喫煙の害」に掲載されている肺の写真は、たばこの害の危険性を強く印象づけることができる。 ・写真の掲載資料は、撮影に工夫がみられリアルであることから、興味関心を持って学習することができる。 ・まとめの問題は、すべてウェブサイトになっているためやや活用しにくい。・「性の多様性」についての記載が、ほとんど扱われていない。(P38、トピックスの「個性や能力を大切にする」のみである。) ・資料がカラフルで、ひき付けられるが、どの部分が大切なのかやや伝わりにくい。 ・「トピックス」に生活に役立つ身近な情報や、現在話題となっている用語や出来事を取りあげられており、考えさせやすい。(アンダー・マネジメント、PTSD、スポーツ障害、メタボリックシンドローム、危険ドラッグ、ヒヤリハット、子ども110番の家、救急車利用のマナー、トクホなど) ・章末資料に掲載されているポスターなどは、文字が小さく、情報がやや伝わりにくい。

発行者 略 称	発行者 番 号	教 科 書 の 記号・番号	教 科 書 名	調 査 結 果 の 概 要
大修館	5 0	保体 050-72	最新 中学校保健体育	・「つかむ→身につける・考える→まとめる・振り返る」の順で学びを深めていけるよう構成されている。 ・P42～43「性の多様性や、性的マイノリティ」に関する資料が豊富に扱われている。 ・P44「脳の発達・働き」について、詳しく説明されている。 ・P58～59、特集資料「ストレスと心の健康」では、ストレスの原因や心の病気の例、いじめの問題についても関連付けて取り扱われている。相談できる機関などが紹介されている。 ・P75 保健の窓を通して、「女性のスポーツ選手の健康問題」など、スポーツによるけがについて、幅広く取り扱われている。 ・P86～87「生活習慣病・がんの早期発見とその回復」について、健康診断の検査の例やがん検診の種類が掲載されており、わかりやすい。 ・P96 特集資料「見直そうスマホの習慣」では、脳への影響について掲載されている。また今日的な問題であるインターネット依存度を確認できるなどの工夫が見られる。 ・P126～135、「文化としてのスポーツ」の章について、「学習のまとめ」の問いが幅広く、授業でやや取り扱いにくい。 ・P140～141の「感染症と病原体」の内容では、新型コロナウイルス感染症についても取り扱われている。 ・デジタルコンテンツの、「動画コンテンツ・Web 保健情報館・Web ワークシート」などが充実しており、わかりやすい。 ・「コラム」にキーワードの補足や具体例が記されており、用語の理解を深められる。 ・各章にまとめ問題があるが、各観点別に問題が出題され、工夫がみられる。 ・P186～188に、簡潔にまとめられた用語解説があり、生徒が活用しやすい。 ・「犯罪の防止」について、取り扱われていない。

発行者 略 称	発行者 番 号	教 科 書 の 記号・番号	教 科 書 名	調 査 結 果 の 概 要
学 研	2 2 4	保体 224-72	新・中学保健体育	・ グラフや表、文字の色が控えめで、全体的に余白が多く、内容量がやや物足りない。 ・ 二次元コードから、外部リンクにアクセスできる（文科省、スポーツ庁、パラスポーツガイドなど）ため、興味・関心を高められ、情報も探しやすい。また、道徳や人権学習にもつなげられる工夫がされている。 ・ P38、『探究しようよ！「アレルギー」』は、具体的でとてもわかりやすい説明になっている。 ・ P45、資料3「各器官の発育の仕方」の図で線の色が同色で、ややわかりにくい。また発達曲線を示す線の〇〇型という表記がないので、ややわかりにくい。 ・ P51、資料6「排卵・受精・着床」の図が大きく、排卵から受精、着床までの一連の流れが明確で、イメージをつかませやすい。 ・ P66、『探究しようよ！「性の多様性」』では、「L G B T、S O G I」などの内容が扱われているが、やや物足りない。 ・ P99、資料3「たばこや酒の警告表示」が大きいことでわかりやすく、警告の啓発に効果が期待される。 ・ 用語の解説が丁寧で、多くの用語が取り扱われる配慮がある。（新興・再興感染症、イーブン・チャンス、アダプテッド・スポーツ、など） ・ 「情報サプリ」では、現代社会の中でよく活用されている用語の紹介や説明があり、身近な生活に役立てやすい。

(様式2)

教科用図書調査に関する報告書

保健体育

観点別評価

「◎」優れている

「○」標準的

「△」やや劣る

選定の観点	選定の視点					東書	大日本	大修館	学研	
学習指導要領との関連	1	学習指導要領に示されている体育科の目標達成に結び付く内容になっているか。					○	○	◎	○
	2	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた工夫がされているか。					◎	○	○	○
	3	「知識及び技能」の習得と「思考力・判断力・表現力等」の育成をバランスよく図るための工夫がされているか。					○	○	◎	○
	4	言語活動の定着を図るための配慮がなされているか。					△	○	○	◎
	5	学習への興味・関心を高めるとともに、学びを深めるために、デジタルコンテンツ機器を適切に活用することができる配慮がなされているか。					◎	○	○	○
	6	SDGs など、今日的課題が取り上げられ、生徒が興味・関心を持ち、主体的に学ぶとともに発展的な学習も行うことができる工夫がされているか。					◎	○	○	○
内容	1	生涯にわたって運動やスポーツに親しみ、スポーツとの多様な関わり方を場面に応じて選択し、実践することができるような内容となっているか。					○	○	○	○
	2	「体づくり運動」の学習を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わわせるとともに、健康や体力の状況に応じて体力を高める必要性を認識することができる内容となっているか。					○	○	◎	○
	3	それぞれの運動の特性や魅力に応じた動きや運動をすることの意義と効果、運動の原則などについて科学的に理解できるような工夫がなされているか。					○	○	◎	○
	4	健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止及び健康と環境など、心身の健康の保持増進について科学的な原則や概念に基づいて理解できるような工夫がなされているか。					◎	○	○	○
	5	各領域の特性を踏まえて、動きや技などの改善についてのポイント、仲間との関わり合いや健康・安全についての課題を発見することができるような内容となっているか。					○	◎	○	△
	6	心の健康や疾病の予防に関する健康課題の解決に関わる内容やストレス対処法等の内容が適切に取り上げられているか。					○	○	◎	○
	7	心と体を一体としてとらえ、個人生活における健康課題を解決することができるよう、健康な生活と疾病の予防の内容について体育分野との関連が図られているか。					○	○	◎	○
構成・分量	1	内容の量と学習時間が適切に配当されているか。					△	△	○	○
	2	生徒の発達段階に即し、系統的、発展的に構成されているか。					○	○	○	◎
表記・表現	1	表記や表現について、文書や挿絵、写真等の使用が適切であるか。					○	◎	◎	○
	2	文字の大きさ、字間、行間などは適切であるか。					○	△	○	△
	3	ユニバーサルデザインの観点から文字の大きさ、色の使用、紙面の構成などについて、配慮されているか。					○	△	◎	△